

知れば知るほど魅力的。訪ねてみよう、家康公ゆかりの地。

IEYASU MAP

中区 家康の散歩道

境内には家康公ゆかりの樹齢1000年を超えるご神木「雲立のクス」

「秀忠公の出生地」「産湯の水となった」などの伝承をもとに作られた井戸

もともと浜松城内に祀られていた五社神社、家康公の命で現在の位置に

家康の散歩道

全行程およそ10km、徒歩2時間の家康公の浜松時代をたどる歴史散歩ルート。浜松城をはじめ、浜松八幡宮や元城町東照宮などのパワースポットのほか、家康公の試練や悲哀を伝えるポイントも。名言「人の一生は重荷を負うて遠き道を行くが如し、急ぐべからず」が聞こえてくるようです。



天竜区

山城は家康公時代以前、戦国時代初期から築城・改修が繰り返された

市の都心部も見渡せる標高540mの眺望

北区

戦いはわずか2時間で決着 (P8、Q9参照)

浜北区

古くからの地元有力者で家康公が側室(阿茶の局)を預け、足を運んだとの言い伝えが残る。
※現在、屋敷内への立ち入りはできません。

東区

豊臣秀吉の初めての就職先の武家屋敷跡 (P8、Q10参照)

南区

浜松に山城が100以上ある?

そう、戦国武将の天下取りの重要拠点だったことを物語る城跡は確認されているだけで100を超えます。徳川・武田の戦いに登場する城も多数。武将たちが山の地形をどう使うか知恵をしぼったアイデアが見どころ。城の設計は時代を追うごとにグレードアップしました。

信康は生きていた?

家康公の長男信康は、織田信長に謀反の疑いをかけられ二俣城で自刃したといわれます。天竜区二俣町の「清瀧寺」にお墓があります。一方で、信康の家来が彼を逃がし、信康は修験僧「八尺坊」として一生を終えたという言い伝えも残っています。
(P10、家康公四百年祭イベントスケジュール(11月)参照)

遠州大念仏は家康公が始めた?

家康公が、犀ヶ崖に落ちて亡くなった武田軍の霊を供養したという物語に遠州大念仏の起源を求めるようになりました。現在、盆供養として実施され、63組が遠州大念仏保存会に加盟し活動しています。犀ヶ崖では、毎年7月15日に行われています。



出世街道

JR浜松駅から街なかを経由して浜松城まで至る道のり。「肴町」や「鍛冶町」など家康公ゆかりの町名もあり、街路灯の表示を目印に「出世街道」沿いの店舗や史跡の散策が楽しめます。飲食店舗ごとの「出世飯(要予約の場合あり)」も話題。家康公の出世運にあやかれるかもしれません。



渚園
ゆるキャラ® グランプリ 2015会場 (P9、Q15参照)

中村家住宅

家康公の第二子、於義丸(後の結城秀康)誕生の屋敷

中区

※多数ある家康公にまつわる史跡や名所の一部を紹介しています。
※浜松城と高根城は、天守や主殿を復元していることから「城跡」の表記をしていません。
※読み方=○○○城跡(じょうあと)